

	コード	名 称	区分	コード	名 称	
事業名	862	公民館事業経費	会計	01	一般会計	
			款	10	教育費	
			項	05	社会教育費	
			目	05	公民館費	
基本 施策	33	だれもが生きがいを持てる機会をつくる	細目	444	公民館活動費	
			細々目	51	公民館事業経費	
行革大綱の重点事項番号						
担当部課	コード	451800	担当者 氏 名	福徳 大司	連絡先	52 - 1110 (内線)
	名 称	青山公民館				

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)		青山地区住民		※対象件数	
成果(どうする)		公民館活動に参加することによって、自らが高まるとともに人とのつながりが出来る。 文化サークルが自立して活動する。			
根拠法令・要綱等					
開始年度		平成	年度		
終了年度		平成	年度	関連事業	
H22	事業内容	・まなびあおやま一般講座の開催(2講座29人) ・まなびあおやま子ども講座の開催(2講座150人) ・図書室公開講座(5講座237人) ・青山文化サークル連絡協議会芸能発表会の活動支援(11月21日) ・ふるさと美術文化展覧会の開催(11月13～15日) ・読み聞かせ事業(図書室12回、小学校30回)			
社会情勢の変化等		講座等の開催をNPOや地域の活動団体と協働して実施することで、新たな活動のフィールドが創設された。			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標	実績	目標	実績
	まなびあおやま(一般・子ども)講座数	回数	28	9	28	10
	図書室公開講座	回数	4	5	4	5

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
				目標	実績	目標	実績
	各種教室の受講者数	受講数により生涯学習の普及効果を推測できる。	人	750	266	270	300
	図書室公開講座	講座に参加した人数	人	200	237	200	200

投入 コスト	H21 決算		H22 決算		H23 当初予算		H24 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
	直接事業費計 (A)		1,927		1,404		1,274	
	A の 財源内 訳	国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他		10				
	一般財源		1,927	1,394	1,274		1,274	
	事業投入人件費 (B)		0.2 人 1,440	1.0 人 7,200	1.0 人 7,200	1.0 人 7,200	1.0 人 7,200	
	フルコスト(A)+(B)		3,367	8,604	8,474		8,474	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	公民館教室・講座が生涯学習のきっかけの場となり 生きがいや豊かな人間形成に役立っています。 また、子ども親子講座は、貴重な体験学習の場と なっています。
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有 効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達 成 度	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
効 率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
有 効 性	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
達 成 度	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効 率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
有 効 性	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
有 効 性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	女子が参加したい「スポーツの教室」を把握するために、小学校児童に対してアンケート調査を実施する。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 子ども講座の担当者が長期病気休暇のため、当初計画の事業内容を精査した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	福徳 大司
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 まなびあおやま(一般・子ども)講座は、学習する場のきっかけづくりとして、継続して行う。 「伊賀市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書室公開講座を行うとともに、保育所・小学校への「読み聞かせ」出前講座を行う。 自立活動をしているサークル発表会等に支援を継続して行う。
現時点における 課題、その他	アンケート調査に基づき、ニュースポーツ、バレーボールの体験等を取り入れた教室を開講し、スポーツへの関心を高める。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	小学校児童に、スポーツに親しんでもらえるきっかけとして、「スポーツ教室」に関心が持てるように、バレーボールを行っているチームの練習試合を見せ 関心度を高めながら、教えていく。他に、フリーブロー・ニュースポーツ等予定。